

家畜衛生だより

令和5年3月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

子牛のクリプトスポリジウム症について

子牛の下痢症（腸炎）は、肺炎と並んで多発している疾病です。治癒しても発育不良になる場合が多く、死亡例も少なくありません。今回は、感染性下痢症の中でも畜産現場で特に問題となっているクリプトスポリジウム症について紹介します。

◎クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム（*Cryptosporidium*、以下 *Cr*）症は、家畜や人へ下痢を引き起こす人獣共通感染症です。全国的な調査で、子牛下痢便の *Cr* 検出率は約 50%と非常に高くなっています。人においても下痢の原因となっており、5類感染症として公衆衛生的にも重要視されています。

（原因）

孢子虫類のコクシジウム目に属する寄生性原虫で、80種以上の哺乳動物で感染が報告されています。牛では *Cr. parvum* が最も病原性が強く、オーシスト*が飼料や飲み水から経口感染します。

**Cr* が外界に排泄される際の形態で、排出直後から感染性をもつ。

（症状）

4週齢未満の子牛に多発し、粘液が混入した黄白色の泥状あるいは水様の

下痢便を排泄します。特徴的な症状として、代謝性アシドーシス(血液重炭酸イオンの低下)による「沈うつ」がみられます。下痢が始まってから4～7日間程度持続し、症状は徐々に回復しますが、その後もしばらくオーシストの排泄は続くため、感染源となります。単独感染ではあまり問題ではありませんが、他の病原体との混合感染で重篤化します。

(診断)

顕微鏡的検査で診断可能ですが、熟練した検査技術が必要なため、現在は10分以内に目視で判定できる精度の高い簡易診断キットが市販され普及しています。

(治療)

Cr に直接作用する特効薬はなく、対症療法で脱水防止のための輸液療法や2次感染時の抗生剤投与が行われます。現在、木酢と炭素末の混合剤(NR製剤：ネッカリッチ)10gと生菌製剤(獣医用宮入菌末)10g、整腸剤(ピオエンチ)10gをペースト状あるいは団子状にして1日3回経口投与方法がある程度有効とされています。

(予防・対策)

感染子牛は早期に隔離し、専用の衣類や長靴を用意する等、農場内に広げないようにしましょう。*Cr*のオーシストは、低温湿潤下で長期間感染力を保有しますが、アルコールやクレゾール、塩素等の一般的な消毒剤ではほとんど効果がなく、農場内の清浄化は困難です。しかし、乾燥や熱に弱いため(70℃以上1分以内で不活化)、施設内を高温洗浄機等で消毒し、生石灰を塗布するのが良いでしょう。加えて、子牛の免疫力を高めるために代用乳2Lに木酢と炭素末の混合剤10gを添加するのも有効で、現在、配合飼料(ネ

ッカミルク)として販売されています。

以上、クリプトスポリジウムについて紹介しました。クリプトスポリジウムは、糞便だけでなく水中や土壌中にも存在するため、飼養環境を清潔に保ち、予防するようにしましょう。

(参考)

○小岩先生コラム

第5回「子牛のクリプトスポリジウム下痢症」-炭素末による予防が大切-

<https://www.genetics-hokkaido.ne.jp/wp5/content/public-relations-sire/sire/dr-koiwa-column/>

○「水道におけるクリプトスポリジウム等対策指針」とその検査について

<https://www.kenko-kenbi.or.jp/columns/water/2007/>

気になることや不明な点等ございましたら、
所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。